

岡崎市中学校地域ブロック部活動の進め方「3段階プラン」(岡崎モデル) について

岡崎市教育委員会

これまで半世紀を超えて教師が献身的に取り組んできた部活動は、大きな教育的役割を果たしてきた。日本の貴重なインフラともいえる部活動、そして、岡崎市の中学生11,000人が関わる部活動を地域移行することは、大変な困難が予想される。

そこで、本市では、中学校における部活動の地域移行として、近隣の学校を同じブロックとして市内8つのブロック(資料2)に分け、中学校ごとの部活動をブロック単位で行う地域ブロック部活動を、岡崎モデル「3段階プラン」として、以下のように進めていくことにした。

1 地域ブロック部活動の目的

岡崎の子どもたちが、将来にわたり、スポーツや文化芸術活動に主体的に関わるができるよう、現在ある部活動を持続発展可能な形にする。その中核となる地域ブロック部活動は、本市が大切にしてきた教育としての部活動の特性を生かす形にすることで、子どもの健全育成を図ることを目的とする。

2 地域ブロック部活動の最終形

- ・運営主体として、地域ブロック部活動運営本部(仮称)を設置し、産学官民共同で運営していくものとする。
- ・令和11年度には完全に学校管理下外の活動とし、兼職兼業による教員の参加も可能とする。
- ・令和7年度の新チームからは、在籍校にある部活動だけでなく、岡崎市内の中学校に現存するすべての部活動に参加することが可能となる。
- ・参加する子どもは、学校終業後一度帰宅し、各活動場所(学校及び公共施設)へ移動する。その際の移動方法は徒歩や自転車、公共交通機関、保護者の送迎となる。
- ・活動は、最大で1週間のうち平日は2日、2時間までとする。休日は、土日のどちらかで3時間までとする。

3 地域ブロック部活動のメリット

- ・岡崎市内の中学校に現存するすべての部活動への参加が可能となるため、子どもは幅広くスポーツや文化芸術活動に親しむことができる。
- ・市内の様々な方が関わることで、市をあげて子どもを育成することができる。
- ・企業と連携することにより、専門的な指導をトップアスリートから直接受けることが可能となる。
- ・公共施設や学校施設を効果的に利活用することにより、これまでよりも恵まれた環境の下で活動することができる。

4 地域ブロック部活動「3段階プラン」について

①子どもの地域移行（令和5年度～7年度）

- ・比較的設置数の少ない部活動から段階的に地域ブロック部活動へ移行する。
- ・ブロック内に設置されている部活動から選択して入部することができる。

②活動の地域移行（令和8年度～10年度）

- ・活動の拠点を、小中学校だけでなく、公共施設も利用できるようにする。
- ・基本的には学校管理下での活動とするが、一部の部活動を学校管理下外で行えるように様々な条件整備を推進する。
- ・条件整備ができたところから、順次実施をしていく。

③運営の地域移行（令和11年度～）

- ・運営主体を学校から地域へ移行することを考え、活動時間を夜型にしていきたい。
- ・部員や指導者の減少に伴い、ブロック割の数を減らしていく。
- ・条件整備ができたところから、順次実施をしていく。

岡崎市中学校地域ブロック部活動の進め方について

これまで半世紀を超えて教師が献身的に取り組んできた部活動は、大きな教育的役割を果たしてきた。日本の貴重なインフラともいえる部活動、そして、**岡崎市の中学生11,000人**が関わる部活動を地域移行することは、大きな困難が予想される。

そこで、**令和5年度からの3年間**は、子どもの活動の地域移行として、**近隣の学校を同じブロックとして市内8つのブロック**に分け、中学校ごとの部活動をブロック単位で行う**地域ブロック部活動**を、**岡崎モデル「3段階プラン」**として進めていく。

岡崎モデル【3段階プラン】

実施計画立案

運営の地域移行

実施計画立案

活動の地域移行

子どもの地域移行

岡崎市立中学校の
地域ブロック部活動への段階的な移行

令和5年度 夏
アーチェリー
弓道

令和6年度 夏
(令和5年度に加え)
ソフトボール
ハンドボール
柔道

令和7年度 夏
(令和5、6年度に加え)
陸上
サッカー
野球
剣道
ソフトテニス
バレーボール
卓球
バスケットボール
吹奏楽
合唱
オーケストラ

- ・比較的設置数の少ない部活動から段階的に地域ブロック部活動へ移行する。
- ・指導は、各校の顧問や部活動指導員が行う。
- ・活動は、原則休日に行う。

第1段階

水泳部は、地域スポーツ活動へ移行する。

学校管理下外での活動を目指して、
様々な条件整備を推進

- ・学校施設活用型
- ・公共施設活用型

検討課題

- ・学校施設活用型では、学校施設の一般開放に向けた設備改修
- ・公共施設活用型では、スポーツ施設や文化芸術施設等の利用について、負担軽減や利用しやすい環境整備
- ・学校開放事業との調整

第2段階

美術部、パソコン部等の文化部の活動は、段階的に社会文化活動に移行できるようにする。

地域ブロック部活動を段階的に外部の
運営主体へ移行

- ・岡崎市地域ブロック運営本部《NPO》
(仮称)の設置
- ・外部委託業者の選定

検討課題

- ・指導者の確保
- ・指導者の研修
- ・可能な限り低廉な会費の設定
(家庭の参加費用の負担軽減)
- ・平日の活動における送迎面の配慮
- ・部活動に準じた活動時間の管理

第3段階

国の方針が変更された場合や子どもや家庭、地域のニーズに大きな変動があった場合には、内容を見直し、必要に応じて修正することとする。

学校管理下内

学校管理下外

R5

R6

R7

R8

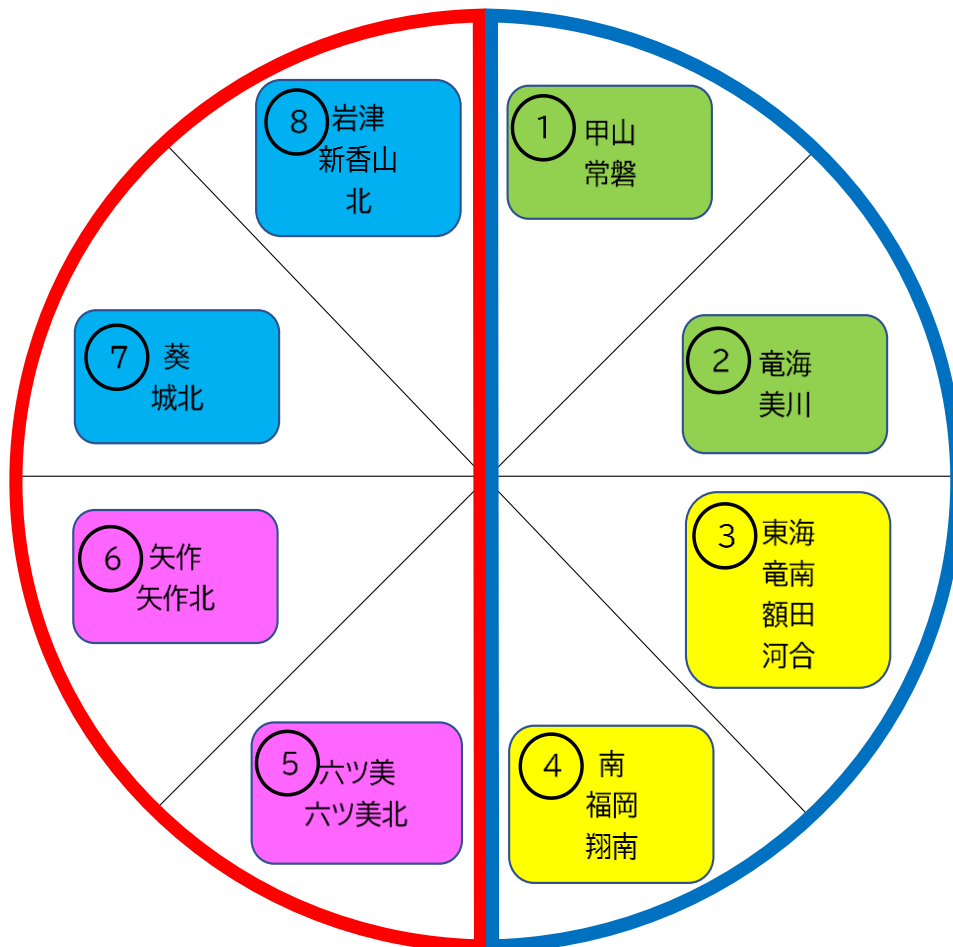
R9

R10

R11以降

岡崎市立中学校地域ブロック部活動の形について

1 地域ブロック部活動の全体図



2 地域ブロック部活動のブロック割

- ・市内 20 校を 8 ブロックに分ける。
- ・ 4 ブロックに分ける場合は、同じ色の数字ブロック同士が結合する。
- ・ 2 ブロックに分ける場合は、赤青の太線の枠内のブロックが結合する。
- ・ 1 ブロックの場合は、市内全中学校を対象とする。

3 部活動ごとのブロック割について

ブロック割	部活動名
8 ブロック	ソフトテニス、陸上、サッカー、剣道、野球 (男) バスケットボール、バレーボール、卓球
4 ブロック	ハンドボール (男)、ソフトボール (女)、吹奏楽
2 ブロック	柔道 (男)、オーケストラ、合唱
1 ブロック	アーチェリー、弓道、柔道 (女)、ハンドボール (女)

(案)

地域ブロック部活動 活動拠点(例:学校施設活用型)

資料3-1

8ブロック	☆…拠点校		男女あり	男子のみ	女子のみ	バレーボール	卓球	剣道
	陸上	ソフトテニス	サッカー	野球(男)	バスケットボール			
A中学校					☆		☆	
B中学校		☆	☆					
C中学校				☆		☆		
ア小学校	☆							
イ小学校								☆

4ブロック	ソフトボール(女)	ハンドボール(男)	吹奏楽
A中学校	公共施設	D中学校	E中学校
B中学校	公共施設	D中学校	E中学校
C中学校	公共施設	D中学校	E中学校

2ブロック	柔道(男)	オーケストラ	合唱
A中学校	公共施設	F中学校	G中学校
B中学校	公共施設	F中学校	G中学校
C中学校	公共施設	F中学校	G中学校

1ブロック	アーチェリー	弓道	柔道(女)	ハンドボール(女)
A中学校	公共施設	公共施設	H中学校	I中学校
B中学校	公共施設	公共施設	H中学校	I中学校
C中学校	公共施設	公共施設	H中学校	I中学校

は資料3-2と共通拠点

(案)

地域ブロック部活動 活動拠点(例:公共施設活用型 I)

資料 3 - 2

☆…拠点校			男女あり	男子のみ	女子のみ			
8ブロック	陸上	ソフトテニス	サッカー	野球(男)	バスケットボール	バレーボール	卓球	剣道
J中学校	公共施設	公共施設	公共施設	公共施設	☆		☆	
K中学校	公共施設	公共施設	公共施設	公共施設		☆		☆

4ブロック	ソフトボール(女)	ハンドボール(男)	吹奏楽
J中学校	公共施設	D中学校	E中学校
K中学校	公共施設	D中学校	E中学校

2ブロック	柔道(男)	オーケストラ	合唱
J中学校	公共施設	F中学校	G中学校
K中学校	公共施設	F中学校	G中学校

1ブロック	アーチェリー	弓道	柔道(女)	ハンドボール(女)
J中学校	公共施設	公共施設	H中学校	I中学校
K中学校	公共施設	公共施設	H中学校	I中学校



は資料3-1と共通拠点